

令和元年度第1回野々市市総合計画審議会 議事録

日 時 令和元年9月3日(火) 14時開始

場 所 野々市市役所2階 201会議室

- 次 第
- 1 開会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 市長あいさつ
 - 4 議事
 - (1) 会長及び副会長の選出について
 - (2) 野々市市第一次総合計画について
 - (3) 野々市市第二次総合計画の策定について
 - 5 その他
 - 6 閉会

出席委員	上野 弘子委員	榎本 俊樹委員(副会長)	太田 利一郎委員	堅田 芳弘委員
	坂井 和代委員	澤村 昭子委員	シー 里香委員	鹿田 正昭委員(会長)
	関口 英委員	田多野 和彦委員	中塚 稔委員	中村 昭一委員
	西村 一正委員	蜂屋 大八委員	初野 健二委員	平泉 沙由里委員
	藤田 雅顯委員	前川 一夫委員	宮川 渉委員	山下 真利奈委員
	山本 剛行委員	山本 善明委員	吉川 明彦委員	

欠席委員 朝倉 あづさ委員 狩谷 満春委員

事務局	常田副市長	山口総務部長	北企画振興部長	肥田健康福祉部長
	北川土木部長	大久保教育文化部長	中田秘書室長	栗財政課長
	木戸口企画課長	企画課職員(宮前補佐、北坂主査、久田主事)		

<p>司会 (開会)</p>	<p>定刻となりましたので、ただ今より、令和元年度第1回野々市市総合計画審議会を開催いたします。</p> <p>皆様方には、公私ともにご多用のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会進行を担当させていただきます、企画課長の木戸口でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>初めに、本日の会議ですが、現在23名の委員が出席でございます。野々市市総合計画審議会規則第3条第2項の規定により、委員25名のうち半数以上の出席がありますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>次に、開会にあたりまして、皆様にお願いがございます。この審議会は、開催状況を市のホームページで公表しておりまして、会議録を作成するため、本日の会議の内容を録音させていただきたいと思っております。発言の際は、マイクをお持ちいたしますので、マイクをご使用いただきますようお願いいたします。</p>
<p>司会 (資料の確認)</p>	<p>続いて、本日の会議資料を確認させていただきます。</p> <p>資料番号1番、「野々市市総合計画審議会委員名簿」でございます。</p> <p>資料番号2番、「野々市市第一次総合計画について」でございます。</p> <p>資料番号3-1番、「野々市市第二次総合計画の策定について」でございます。</p> <p>資料番号3-2番、「市民参画及び職員参画での取り組み」でございます。</p> <p>資料番号3-3番、「野々市市第二次次総合計画策定スケジュール(案)」は、取り組みを順に示したスケジュールでございます。</p> <p>資料番号3-4番は、同じく「野々市市第二次次総合計画策定スケジュール(案)」で、組織(会議体)ごとにみたスケジュールを示したものでございます。</p> <p>また、お手元に、「野々市市総合計画審議会条例」及び「野々市市総合計画審議会規則」、ののいち市民協働フォーラムについてのお知らせを置いてございます。</p>
<p>司会 (委嘱状交付)</p>	<p>それでは、委員の皆様へ委嘱状を交付させていただきます。市長が皆様の席にお伺いし、委嘱状をお渡しいたします。資料1の名簿の順にお名前をお呼びしますので、恐縮でございますが、その場でご起立ください。</p> <p>(順に委嘱状を交付)</p> <p>なお、朝倉様と狩谷様は本日欠席でございますので、後日、事務局より委嘱状を交付させていただきます。</p>

<p>司会 (職員の紹介)</p>	<p>続きまして、職員の紹介をいたします。常田 功二副市长です。山口 良総務部長です。北 洋一企画振興部長です。肥田 千春健康福祉部長です。北川 勝土木部長です。大久保 邦彦教育文化部長です。粟 信幸財政課長です。中田 八千代秘書室長です。</p> <p>事務局の紹介をいたします。企画課 課長補佐の宮前です。企画課 企画係の北坂です。企画課 企画係の久田です。</p> <p>最後に、改めまして、企画課長の木戸口です。よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、野々市市長 粟 貴章より委員の皆様にごあいさつを申し上げます。</p>
<p>粟市長 (市長あいさつ)</p>	<p>本日は、ご多用のところ野々市市総合計画審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。皆様には日頃から、各方面にわたり本市のまちづくりにご協力、ご尽力をいただいておりますことに心から感謝を申し上げます。</p> <p>今年度は、総合計画審議会委員の改選の年であり、昨年から継続して就任いただきました皆様に加え、8名の方に新たに委員に就任いただきました。委員への就任を快くお引き受けいただきましたことに、重ねてお礼申し上げます。</p> <p>さて、野々市市第一次総合計画は、市制施行後の本市のまちづくりの指針として平成24年度にスタートいたしました。令和3年度を目標年次としており、計画期間の8年目を迎えました。仕上げの時期であるとともに、次期総合計画の策定に取り組む重要な時期でもございます。</p> <p>近年の取り組みをご紹介しますと、4月に「にぎわいの里ののいちカミーノ」が開館し、お陰様で多くの方に来館いただいております。カミーノを舞台に、野々市じょんからまつりに合わせて初めて開催いたしました。「じょんからフェス」は、1の1じょんからフェス実行委員会の皆様のご尽力のもと、若い世代を中心に「もう一つのじょんからまつり」として盛り上げていただきました。イベントを開催していない日でも、家族やお仲間と食事や団らんを楽しまれる姿が多くみられ、大変嬉しく思っております。今後も、カミーノをご利用いただいている市民の皆様、市民活動に取り組まれる団体の皆様の声に耳を傾け、一層ご活用いただきやすい場となりますよう、また、これまで足を運んだことのない方にもお越しいただけるよう取り組んでまいりたいと思っております。</p> <p>第一次総合計画の残りの期間につきましても、また、次期の総合計画におきましても、市民の皆さんが活躍できる舞台を整えるということは、本市の大切な役目であると思っております。</p> <p>委員の皆様には、それぞれのお立場から、これまでの本市のまちづくりの評価と、今後に期待することなど、率直な御意見をいただきますようお願いを申し上げます。開会にあたってのごあいさつといたします。</p>

<p>会長の選出 (司会)</p>	<p>ありがとうございました。市長は他の公務のためここで退席させていただきます。それでは、次第4の議事に移ります。</p> <p>初めに、議事の1番、会長及び副会長の選出でございます。</p> <p>資料1番、「野々市市総合計画審議会委員名簿」をご覧ください。</p> <p>野々市市総合計画審議会条例第5条第1項で、会長は、委員の互選により選任する、となっておりますので会長の選出についてお諮りします。いかがいたしましょうか。</p>
<p>澤村委員</p>	<p>鹿田先生が良いと思います。</p>
<p>会長の選出 (司会)</p>	<p>金沢工業大学の副学長であります鹿田委員のお名前が挙がりましたが、いかがでしょうか。</p> <p>(「異議無し」の声)</p> <p>ありがとうございます。「異議無し」のお声をいただきましたので、鹿田委員に会長の就任をお願いしたいと思います。鹿田会長、資料とネームプレートをお持ちいただき、席のご移動をお願いします。</p> <p>それでは、野々市市総合計画審議会規則第3条第1項で、会長が会議の議長となることと定めておりますので、この後の議事進行につきましては鹿田会長をお願いしたいと思います。鹿田会長、最初にごあいさつをいただきましてから、議事の進行をお願いいたします。</p>
<p>鹿田会長 (会長あいさつ)</p>	<p>金沢工業大学副学長の鹿田でございます。</p> <p>ご推薦をいただきましたので、僭越ではございますが昨年度に引き続き会長を務めさせていただきます。皆様方のお力添えをいただきながら会議を進めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。</p> <p>この審議会には、産業関係の団体、民間企業、金融機関、教育機関、そして公募でお集まりいただいた市民の皆様など、非常に幅広い分野、幅広い年代の皆様にお集まりいただいております。昨年度の審議会では、少し時間を超過するほど熱心なご意見、ご議論をいただきました。今回も委員各位のご活躍の立場および市民の立場から多角的、多面的な意見をいただけることを期待しております。</p> <p>さて、この機会に本学について少しお話をさせていただきます。本学と野々市市は、平成16年11月に連携協定を締結して以来、一体となって数多くの特色ある教育を実践してまいりました。</p> <p>ごく直近の話題としては、提案型協働事業採択事業として金沢工業大学 Bus Stop プロジェクトがコミュニティバスのつてに GPS 機器を設置し、パソコンやスマー</p>

鹿田会長
(会長あいさつ)

トフォン等の情報端末でバスの現在位置を把握する「バスどこシステム」について実証実験を行っているのはご存知と思います。去る8月1日には市民へのアンケート調査を行い、更なる利便性の向上を図ることを行っていると聞いております。

また、昨年度もご紹介いたしましたが、本学は日本の大学としては初めて「SDGs推進センター」を設立し、SDGs教育の普及に取り組んでいます。SDGsとは、世界規模で持続可能な消費や生産に取り組むための、国連が定めた17の開発目標のことです。昨年度は「第1回ジャパンSDGsサミット」を10月6日、7日の2日間、白山麓キャンパスで、今年度は「第2回ジャパンSDGsサミット」を8月1日、2日の2日間、千葉県千葉市の神田外語大学で開催しました。

SDGsで掲げる、「誰一人取り残さない世界」の実現にもつながるキーワードとして、「Society5.0」があります。IoTで人とモノがつながり、知識や情報が共有され、新しい価値が創造されることにより、課題を解決する社会です。本学ではこの未来社会「Society5.0」をけん引する人材育成のために、これまで以上に企業や行政との連携を進めることとしております。

具体的にご紹介しますと、Society5.0に向けたKITリカレント教育プログラムを開始しました。Society5.0をリードする上で必要となるAI、IoTなどを学ぶ「AI基礎」、「データサイエンス基礎」、「IoTプログラミング入門」など、最新の知識や技術を修得することができます。今年度後学期の募集はすでに終了しましたが、ご興味がありましたら、この後は毎年実施していくと思いますのでチャレンジしていただければと思います。

以上のように、地域の方々、企業の方々、行政の方々等多くの方々と関わりながら、連携して社会の多様な課題に取り組むことで本学のイノベーション創出能力の向上を図っております。

一方、野々市市には、本学とともに石川県立大学も本拠地を構えております。本学および石川県立大学の持つノウハウ、学生のアイデアや行動力などをまちづくりに活用いただくことが、市内に高等教育機関が2つ存在する強みではないかと思えます。

さて、野々市市第一次総合計画は、市制施行後の10年間を展望した計画として平成24年度からスタートいたしました。平成28年度には中間見直しを行い、今年度は計画期間の8年目となります。進捗状況の点検と同時に、次期の計画の策定が始まるということで、本審議会にとりましても非常に重要な時期を迎えます。

冒頭にも申し上げましたが、委員の皆様におかれましては、それぞれの立場からこれまでの本市のまちづくりを振り返って思うこと、日々感じていらっしゃることを含め、率直なご意見をたくさんいただき、市民の声としてまとめていきたいと思えます。どうぞ、よろしく願いいたします。

それでは、早速ですが、議事の進行に移ります。

副会長の選出についてですが、総合計画審議会条例第5条第3項で、「副会長は、会長の指名により選任する」、となっておりますので、私から副会長を指名させてい

鹿田会長
(副会長の選出)

<p>鹿田会長 (副会長の選出)</p>	<p>たきます。副会長には、石川県立大学産学官連携学術交流センター長で、2年前までこの審議会の副会長を務めていただいております。榎本 俊樹委員にお願いします。榎本副会長、資料をお持ちいただき、席のご移動をお願いします。</p>
<p>榎本会長 (副会長あいさつ)</p>	<p>石川県立大学の榎本と言います。2年前まで産学官連携学術交流センター長をしておりましたが、この2年間は学生部長という別の職務を担当しておりました。</p> <p>この2年間で取り組みが進んでいると思いますので、私自身も勉強しながら皆さんにも活発にご意見をいただき、鹿田会長をサポートしていきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。</p>
<p>鹿田会長 (進行)</p>	<p>ありがとうございました。それでは、議事を進めます。</p> <p>議事の2番「野々市市第一次総合計画について」及び議事の3番「野々市市第二次総合計画の策定について」は関連しておりますので、事務局は一括して説明をお願いします。なお、質問は、全ての説明が終了後、まとめてお受けいたします。</p>
<p>事務局 (資料の説明)</p>	<p>資料2「野々市市第一次総合計画について」の説明をさせていただきます。</p> <p>野々市市第一次総合計画は、本市のまちづくりの全分野を網羅する総合的な指針となる最上位の計画でありまして、将来都市像を定めた「基本構想」と、将来都市像を実現するための政策と施策を定める「基本計画」から構成されています。</p> <p>計画期間は、2012年度（平成24年度）から2021年度（令和3年度）までの10年間の計画であります。基本構想には、本市の10年後の将来都市像を「人の和で椿十徳生きるまち」と定め、この将来都市像を実現するための政策として8つの「まちづくりの基本方針」と政策を達成するための施策として32の「まちづくりの基本目標」を設定しております。基本計画は、将来都市像を達成するための基本的な施策の体系を示しています。8つの政策、32の施策とともに、これらを実現するために行う、より具体的な88の施策を取りまとめています。</p> <p>「中間見直し」の説明に移ります。野々市市第一次総合計画は、基本構想10年、基本計画は、前期基本計画の5年と後期基本計画の5年からなっております。平成28年度に計画の中間年を迎えたため、人口の推移や意識調査、政策の進捗状況などの本市の状況を整理して、中間見直しを行っております。第一次総合計画の目標年次である平成33（令和3）年度の目標人口を54,000人から58,000人に変更いたしました。平成27年の国勢調査において、本市の人口は55,000人を超えたため、平成27年の国勢調査の結果から新たな人口の推計を行い58,000人としたものであります。また、前期基本計画では具体的な施策として88の施策を推進してまいりましたが、各施策の進捗や社会情勢の変化等を踏まえ、この88の具体的な施策に9つの施策を加えた97の具体的な施策として後期基本計画にまとめております。</p>

事務局
(資料の説明)

次に「行政評価と野々市市第一次総合計画の進捗」であります。第一次総合計画に掲げる将来都市像の実現に向け、計画を着実に実行していくため、毎年、行政評価を行っています。行政評価では、施策や施策を達成する手段である主要な事務や事業の進捗状況、達成状況を把握し、「順調」や「おおむね順調」などの評価を行っています。昨年実施した行政評価の各政策別の施策の達成状況は、「順調・おおむね順調」が76.8%、「遅れている・やや遅れている」が21.0%でありました。

評価した結果は、取りまとめを行い、評価結果を踏まえ、実施計画を策定して公表しております。毎年、見直しを行い、施策や事務事業の中期的な取り組み方針を明らかにしております。今年度におきましても行政評価を実施しており、第八次実施計画の策定に着手しております。次回の審議会で計画案を提示してまいりたいと思っております。

続きまして、資料3-1をお開きください。

野々市市第二次総合計画の策定についてでございますが、今ほど説明いたしました野々市市第一次総合計画は、計画期間満了まで3年を切り、進捗状況の点検と総仕上げの時期を迎えております。そのため、2022（令和4）年度からスタートする野々市市第二次総合計画の策定に向けた、業務に本格的に着手してまいります。

策定にあたり、第一次総合計画の成果と課題を踏まえた上で、市民協働のまちづくりを加速化させるとともに、関係人口やSDGsといった新たな視点を交え、未来の野々市のために何に取り組むべきかを整理してまいります。

なお、関係人口とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことをいいます。いわゆる、野々市ファンを創り出すことであります。また、SDGsとは、「誰一人取り残さない」世界の実現のために、世界規模で持続可能な消費や生産、気候変動対策などに取り組むため、国連が定めた2030年までの持続可能な17の開発目標のことであります。

更には、野々市市第一次総合計画で掲げる市民協働のまちづくりの理念を反映し、これまでの「市民参画」に加え、全庁一丸となって計画策定に取り組むことから「職員参画」を強化し、市民と職員の協働により策定してまいります。

次に「計画の名称及び計画期間」であります。計画の名称は、野々市市第二次総合計画であります。計画期間は、2022（令和4）年度から2031（令和13）年度までの10年間です。

策定体制であります。各組織（会議体）等の概要と合わせてご覧ください。なお、丸新と表示されている項目は、今回が初めての取り組みとなります。

市長から黄色で着色してあります（A）総合計画審議会の皆様に対して、第二次総合計画の基本構想案と基本計画案について、審議のうえご意見をいただきたい旨の諮問がなされます。事務局は、ピンク色に着色してあります、（H）若者みらい会議、（I）市民座談会、（J）市民アンケートを開催、実施し、市民の皆様のご意見を伺ってまいります。下の方にごございます（E・F）ワーキンググループでございますが、職員参画として、意欲ある市民と対話を重ねるため、中堅職員、若手職員からなるワーキンググループを設置し、（D）の作業部会や（H）の（仮称）若者みら

事務局
(資料の説明)

い会議に参加してまいります。今年度については、会議に参加するための準備を行ってまいります。(D)の作業部会では、市民の皆様の御意見を反映させた、基本構想(案)や施策(案)の検討を行います。(C)の幹事会を経て(B)の策定委員会で策定方針等の決定や計画を取りまとめ、計画案として(A)総合計画審議会に提示します。(A)の総合計画審議会では、計画案の提示を受け、審議を行い、市長に対して答申を行います。実際には、年に2から3回、策定の進捗状況を把握していただくための会議を開催いたします。市長は総合計画審議会からの答申を受けた後、パブリックコメントを実施し、意見を反映させた基本構想を議会に上程いたします。議会は、上程された基本構想を審査の上、採択いたします。このような策定体制により、野々市市第二次総合計画を策定してまいります。

次に資料3-2をお開きください。

市民参画及び職員参画での取り組みですが、策定体制のうち市民参画、職員参画の分野について、もう少し具体的に説明いたします。

(D)作業部会ですが、策定委員会の下部組織として、事務局とともに基本構想(案)及び施策(案)等を検討していただきます。メンバーは市民団体の代表や公募などから12名と、後に説明いたしますワーキンググループの中堅職員10名の22名程度で構成いたします。開催時期は、令和2年度から令和3年度にかけて開催し、全10回程度の開催を予定しております。

次に(E・F)ワーキンググループですが、策定にあたり、市民参画に加え職員参画を強化するため、市職員の若手職員、中堅職員からなるワーキンググループを設置いたします。若手職員は(仮称)若者みらい会議に、中堅職員は市民座談会に出席し、市民とともに野々市の未来を考えます。更に中堅職員は、市民とともに作業部会に出席し具体的な基本構想案、施策案等を検討してまいります。

メンバーは市職員の若手職員10名程度と中堅職員各部2名の10名の20名程度で構成いたします。活動時期及び活動内容ですが、今年度10月から3月にかけて、勉強会を開催し、職員が市民との対話を行うために必要な、まちづくりの課題などについて学習いたします。令和2年度に若手職員は(仮称)若者みらい会議に、中堅職員は市民座談会に参加いたします。令和2年度から令和3年度にかけて、中堅職員は作業部会に参加いたします。

次に(H)(仮称)若者みらい会議ですが、未来を担う若者の生の声を収集するために開催し、未来を担う若者の視点で、未来の野々市の姿について考え、自分たちは何をすべきか、何ができるかを考えます。メンバーは、野々市中学校、布水中学校から各4名、野々市明倫高校から4名、金沢工業大学、石川県立大学から各4名、ワーキンググループの若手職員から10名程度の30名程度の構成を予定しております。開催時期は、令和2年8月上旬を予定しております。

次に(I)市民座談会ですが、市民の生の声を収集するために開催し、第一次総合計画の推進状況や市の現状、課題を確認した上で、未来の野々市の姿について考え、自分たちは何をすべきか、何ができるかを考えます。メンバーは、参加を希望する市民とワーキンググループの中堅職員10名、策定委員会の委員、部長5名での

事務局
(資料の説明)

構成を予定しております。開催時期は、令和2年5月から7月頃に会場を変えて2回開催いたします。

次に（J）市民アンケートですが、第一次総合計画の推進前と推進後における市民のまちづくりに対する評価やイメージを比較するとともに、市民の意見を計画に反映させるため、市民アンケートを実施いたします。23歳以上の市民の方に対して3,500通、野々市会やふるさと交流会の参加者などの関係人口にあたる方に230通程度、市職員に340通程度を令和2年1月以降に配布し、年度内に取りまとめる予定としております。

続きまして、資料3-3をお開きください。

資料3-3と3-4は共に、野々市市第二次総合計画策定スケジュール（案）ですが、資料3-3は、取り組み内容ベース、資料3-4は、組織（会議体）ベースのスケジュール（案）であります。本日は、資料3-3の取り組み内容ベースのスケジュール（案）で説明させていただきます。

資料中の着色ですが、主にピンク色の取り組みが「市民参画」、水色の取り組みが「職員参画」、緑色が市民と職員が取り組む「市民協働」となっております。表の一番上の行の「総合計画審議会」ですが、今年度は会議を2回開催いたします。1回目は本日の開催で、2回目は11月に開催予定であります。第八次実施計画の内容について審議をしていただきます。令和2年度は、諮問、アンケート等の報告、第一次総合計画の評価、基本構想の骨子の審議などで3回の会議を予定しております。令和3年度は、基本構想の素案、基本計画の素案、第二次総合計画の案について審議していただき答申を含めて、3回の会議を予定しております。

次に今年度の取り組みですが、「統計データハンドブック」は、統計データ等をグラフ化し、本市の特徴や課題を整理するために6月から9月にかけて作成してまいります。

「職員対象（仮称）まちづくり勉強会」ですが、ワーキンググループの若手職員、中堅職員を対象に10月から5回の勉強会を開催する予定です。

「市民アンケート調査、職員アンケート調査」は、1月以降に配布し今年度中に取りまとめる予定としております。

次に令和2年度、3年度の取り組みですが、「市民座談会」を令和2年5月から7月の間に2回開催する予定です。「（仮称）若者みらい会議」を令和2年8月に開催する予定です。合わせて策定する国土強靱化地域計画のため、消防や警察といった関係団体のヒアリングを5月から7月の間に行う予定です。「作業部会」は、令和2年4月に部会員を公募し、部会員の委嘱、課題の把握、未来について考え、基本構想の検討、原案の確認まで、令和2年9月から令和3年9月にかけて、12回開催する予定です。「事務局」は、各会議の開催や実施、運営に加え、基本構想案や基本計画案を取りまとめまいります。

これまで説明してまいりました、実施する内容や時期につきましては、今後、変更することもございますが、概ねこのような内容で第二次総合計画の策定業務を進めてまいります。資料の説明は以上です。

鹿田会長 (進行)	ただ今の、事務局からの説明に、ご質問などはございませんか。
坂井委員	若者みらい会議は良い取り組みだと思うので、詳細を教えてください。
事務局	具体的な内容はこれから検討してまいります。市内の中学生、高校生、大学生で構成する予定です。詳細が決定しましたら、審議会等でご報告したいと思います。
鹿田会長 (進行)	折角ですので、「こういうことをして欲しい」という提案はありますか。
坂井委員	小学生は対象に入りませんか。6年生くらいですと結構意見も言えますし、小学生の意見もあると楽しいかと思えます。
事務局	ご意見を参考に、検討したいと思います。
吉川委員	今の提案に関連してですが、ワーキンググループ、若者みらい会議、市民座談会というのが新しくできるということですが、これを企画しようと思った背景と、ファシリテーター等コントロールする方の役割がとても重要となります。そういった人材はどのように教育または来ていただくのでしょうか。また、こういった取り組みをしているモデルとなる自治体があるかどうか、この3点について教えてください。
事務局	背景につきましてですが、6月に市長の新しい任期がスタートした際に「市民協働を加速させる」ということを仰っていましたので、市民参画と職員参画による計画の策定のために職員を育成するというので、若手と中堅職員とでワーキンググループを構成したというのが背景にあります。
	ファシリテーターにつきましては、ワーキンググループに参画する職員にそういったスキルを身に付けて欲しいと思っております。今年度は実際に市民協働課の事業で全5回からなるファシリテーター養成講座が開講されており、何名かの中堅職員は受講しております。スキルを身に付け、来年度以降、市民の方々の意見にしつ

<p>事務局</p>	<p>かりと耳を傾けていけるようにしていきたいと思っております。</p> <p>モデルとする事例ですが、昨年、神奈川県の小田原市を視察させていただいたのですが、小田原市の職員は業務に対する意識が非常に強く、モデル自治体として参考にさせていただいております。</p>
<p>吉川委員</p>	<p>若手の職員の皆さんは大変だと思いますが、取り組んでいただければ嬉しく思います。</p> <p>先ほど、会長の挨拶の中で、Society5.0 といった世の中の動きについてお話がありました。第4次産業革命や Society5.0、2020年には小学校でプログラミング教育が始まりますし、世の中の動きがすごく慌ただしいです。そういった情報は国から県、それから市に届きますが、市民のところには自分で努力しないとなかなか情報が入ってきません。私達市民からすると一番身近なところは市役所ですから、市の方からそういった情報や動きについて教えていただくのが一番良いと思います。そういったことを念頭に置いて取り組んでいただきたいと思っています。市民からは様々な意見が出てくると思われませんが、国や県の方針に沿って進めた方が他の自治体との調和もとれますので、そういったことを念頭においてぜひこれらの取り組みを成功させて欲しいと思います。市長が言われますように、多くの市民がこういった取り組みに参画する、そういう時代になってきています。職員とともに知識を得てレベルアップしていけるようにして欲しいと思います。</p> <p>私はこれらの企画には大賛成ですし興味深く思っておりますので、ぜひ途中経過を教えて欲しいと思います。</p>
<p>蜂屋委員</p>	<p>金沢大学の蜂屋と言います。今回から初めて参加させていただきますので、第一次総合計画の策定の様子はわかりませんが、これらのそれぞれの仕組みについては良いと思います。しかし、全体を通してのファシリテーターがこの中には入っていないのではないかと思います。先ほど事務局から回答がありましたその場の話し合いを上手く進めるためのファシリテーションスキルについては研修で身に付けられるかと思いますが、計画全体のファシリテーションとして、何をどのように方向付けていくのかということとどのグループが司るのか、ということが明確になっていないのではないかと思います。</p> <p>例えば、一番の重責は作業部会のように思うのですが、その作業部会の方々はどのような方向性でいくのか、まちづくり勉強会で情報収集したもので作業部会が運営されていくのか、それとも別に専門家をたてるのかということとでだいぶ違ってく</p>

<p>蜂屋委員</p>	<p>るのではないかと考えています。</p> <p>作業部会につきましては、システムとしては良いと思いますが、トップダウンとボトムアップとでやり方がいろいろと変わってくるかと思っています。野々市市の特性を活かしてここにしかないものを作っていくということにすると、幅広い市民や若者の意見を踏まえてボトムアップで積み上げていくというのが理想的かと思っています。その場合には、全体を通してのファシリテーション能力が必要かと思っています。相当高度な能力が必要ですが、上手くいけばとても良いものができると思います。そうではなくて言葉は悪いですがガス抜きのためにするというのもありますので、そういう場合にはそれなりの結果にしかならないかと思っています。</p> <p>システムとしては非常に良いと思いますが、全体の方向性としてどういったものをめざすのか、それに即したシステムを考えていく必要があるのではと思います。</p> <p>先ほど、どこかの事例をというお話がありましたが、高知県の佐川町では完全にボトムアップで18回のワークショップだけで総合計画を作りました。これを野々市市でそのまま適用できるとは思っていませんが、ボトムアップでの良さというものがあるかと思っていますので紹介させていただきました。</p>
<p>鹿田会長 (進行)</p>	<p>貴重な御意見だと思っています。ファシリテーターというのは個別の話し合いの場でのファシリテーターもありますが、「全体をコントロールするファシリテーターはいいますか」というご質問であったと思います。</p> <p>事務局は、現時点の考えとしてはいかがでしょうか。</p>
<p>常田副市長</p>	<p>はっきりと決まっているわけではありませんが、市の策定委員会と作業部会で全体を引っ張っていきたくと思っています。今回、非常に鋭いご指摘をいただきましたとおり、折角の会議がガス抜きの場にしかならないことを危惧しており、また、広い意見を求めたいがためにたくさんの会を開催しても、意見が発散してしまつてまとまらないのではと心配しておりました。</p> <p>一方では市長が言うておりますように、市民協働型の野々市市なので、色々な方の意見を聞かなくてはということもあります。今後進めていく中でベストな方法を取り入れていきたくと思いますが、はっきりお答えするとしましたら、今のところは、策定委員会や作業部会で引っ張っていきます。策定委員会には私や各部長も参加しておりますので、トップダウンと言えばそうですが、そこに上がってくるのは作業部会等での意見ということでボトムアップとも言えます。2者択一ではなく、上手く調整しながら会議を進め、良いものを作っていきたいと思っています。</p>

<p>蜂屋委員</p>	<p>ありがとうございます。そうしますと、資料3-3の作業部会のところ「ワークショップを実施」とありますが、作業部会内部のワークショップではなく、広く市民に呼び掛けてオープンな形での作業部会にしていただければと思います。</p>
<p>北企画振興部長</p>	<p>若干補足させていただきます。</p> <p>今ほど蜂屋先生からご指摘いただきました全体のファシリテーターにつきましてですが、前回の策定時には部会長を大学の先生にお務めいただき、ファシリテーションをお願いしたということがございます。</p> <p>今回いただいた全体のファシリテーターに関する御意見につきましても、方向性を検討していきたいと思いますが、まずは副市長の言うように庁内の組織から進めていきたいと思っています。</p>
<p>藤田委員</p>	<p>連合町内会長をさせていただきます藤田です。</p> <p>総合計画審議会が開催され、実績値の推移は評価されていますが、それ以上に煮詰めての考察、要は、計画として立てて良かったかどうかの考察はなされていないように思います。今後、そういった考察がなされていない指標等を再び集めて策定したらどうなるかは、10年先に結論が出ると思います。できれば、継続性をもってまちづくりに役立てられるような総合計画を策定して欲しいと思っております。</p> <p>また、吉川委員が言われましたように、世の中のスピードが非常に速いです。そのため、3年前には中間見直しを行っておりますが、それでも現在の状況に適さない内容が残ってしまっていますので柔軟に修正できるようにして欲しいと思います。</p> <p>それから、若者みらい会議の最終的なリーダーシップは誰がとられるのかと疑問に思いました。小学生の意見、高校生の意見、大学生の意見はそれぞれに相当違うかと思っています。子供の言ったことを上手に引き上げてくれるリーダーがいるのかどうか大事な事かと思っています。</p>
<p>鹿田会長 (進行)</p>	<p>2点ありました。野々市市第一次総合計画の総まとめについて、総合的にこの10年間についてどうまとめるのかということが1点目、2点目は、若者みらい会議のリーダーは誰かということでした。</p> <p>回答はいかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>1点目の総合計画の評価につきましては、毎年PDCAサイクルを繰り返し、遅</p>

<p>事務局</p>	<p>れていると評価したところは継続・強化していくというように進めております。</p> <p>目標値が高く現状に合っていないものは、第二次の総合計画の策定の際には見直していくということも必要かと思っております。また、計画期間の中間年には、中間見直しということで経過をみながら修正等をしていきたいと考えています。</p> <p>2点目の若者みらい会議につきましては、若手職員がとりまとめを担っていく予定ですが、先ほど蜂屋先生の御意見にもありましたが、総合的なとりまとめをしていただける方も検討したいと思えます。</p>
<p>鹿田会長 (進行)</p>	<p>他にございませんでしょうか。</p>
<p>山下委員</p>	<p>金沢工業大学の山下と申します。</p> <p>資料3-1の前半に「関係人口やSDGsといった新たな視点をまじえ」とありますが、具体的にどこの項目に落とし込まれているのでしょうか。</p> <p>また、SDGsは、2030年までに達成すべき世界的な目標というように認識しておりますが、世界的な目標が野々市市のどこに関連しているのかということが気になりました。</p>
<p>事務局</p>	<p>関係人口やSDGsにつきましては、今後検討する第二次総合計画の施策の中に盛り込んでいきたいと考えております。</p> <p>また、SDGsは目標自体が非常にマクロな目標ですので、自治体の取り組みに落とし込むというのは難しい部分もありますが、施策に合致する部分があればその要素を盛り込んでいきたいというふうに考えております。</p>
<p>鹿田会長 (進行)</p>	<p>他にありますかでしょうか。</p>
<p>蜂屋委員</p>	<p>議事の主旨とは異なるかもしれませんが、これに関わる若手・中堅職員の負担軽減はされるのでしょうか。負担が大きく余計な仕事に感じられると、折角の良い制度であっても機能しなくなってしまうと思います。先ほどの事務局の説明で、職員の育成という面が強くて出ているかと思えます。OJTにつながるかと思えますので上手く機能させて欲しいと思います。その分の負担軽減を図り、これらの取り組みについてよく考えられるような余裕を若手・中堅職員に持たせて欲しいと思います。</p>

<p>鹿田会長 (進行)</p>	<p>「職員の方の働き方について考えていますか」という御意見だと思いますがいかがでしょうか。</p>
<p>常田副市長</p>	<p>メンバーについては職員から希望を募り、志のある職員から手を挙げていただきました。通常の業務もありますので負担になるのではという御意見ですが、志の高い職員が来てくれます。こちらでも、過度の負担にならないようには気を配ってまいります。</p>
<p>中村委員</p>	<p>文化協会の中村です。市民アンケートを実施するとありますが、アンケートはどのように作るのでしょうか。アンケートは作った人の意向が入ってしまうので、非常に難しいものです。</p>
<p>事務局</p>	<p>前回の総合計画の策定時にも、町民アンケートを実施しました。町から市になり、行政への意識がどのくらい高まっているのかということも把握していきます。前回との回答を比較するために、前回と同様の設問を設定していきます。関係人口といった新たな要素についても、新たな項目を追加していきたいと思いますが、基本的には前回の調査を基本としていきたいと思っています。</p>
<p>鹿田会長 (進行)</p>	<p>他にいかがでしょうか。</p>
<p>吉川委員</p>	<p>少し話題を変えたいと思います。</p> <p>資料の2番に行政評価について記載があります。産業振興の政策6は「順調・おおむね順調」が60%とあり、大事な産業振興が「遅れている」となっているのが気になります。これから色々なことをするにもお金が一番大事になってきます。お金の話をしないと行政は立ち行かなくなりますので、この辺はしっかりと考えていただきたいと思っています。</p> <p>地方自治体で新しいことをするのは非常に難しいと思いますが、本日の北国新聞でICTに関する記事が掲載されていました。これからのキーワードはICTではないかと思っています。野々市市に関しては別の日におもしろい記事が掲載されていました。ベトナムの方が野々市市を訪問されたという記事です。冒頭にお話のありました「関係人口」にも、こういった留学生との交流が活かせるのではと思いました。グローバル化とICT化というのを念頭において行政も市民も野々市の街を</p>

<p>吉川委員</p>	<p>活性化していくということを考えていけないのではないかと思います。そういった視点はこれから避けては通れません。</p> <p>農業については、ヤーコンを作ろうといったような話がありますが、まだ土地がたくさんあります。石川県立大学や金沢大学、金沢工業大学の先生がいらっしゃいますので、学生と一緒に、大学の知識を活かし、グローバル化やICT化といった視点を産業に施策に盛り込んでいただきたいと思います。今進めている産業政策には一生懸命取り組んでも必ずしも効果がないものもあるかと思いますが、画期的なものを考えて欲しいと思います。</p>
<p>鹿田会長 (進行)</p>	<p>希望というかご提案であったかと思いますが、コメントはありますでしょうか。</p>
<p>常田副市長</p>	<p>資料2で産業振興について「順調・おおむね順調」に進んでいるものが60%とあり、他と比べて低くなっています。私と部長で全ての事業の進捗をチェックしており、その中で産業振興が遅れているという評価になっておりますが、野々市市は全体的に面積が狭く、他の自治体のような工業団地は作れないということもあり、なかなか産業振興施策というのは難しい部分があります。取り組みとしては起業される方への支援といったところに偏りがちです。</p> <p>また、野々市市は31もの区画整理事業を進めており、石川県内でも断トツで多い状況です。野々市市の街づくりは区画整理事業を進めてきたといっても過言ではありません。良好な市街地や縦横がきちんと整備された道路は、全て区画整理事業によるものです。そういった中で、農地はだんだんと減ってきます。小さい面積の野々市市の中の少ない農地の中でどんなことを振興していくのかということは非常に難しいところです。</p> <p>野々市市の産業についてこれからの10年間を考えた時に、真剣に考えるべきであろう課題だと思っております。これまでの成果の60%という数値をみても難しいことではあると感じますが、第二次総合計画の策定に際してはしっかりと方向性を出しながら進めていきたいと思っております。</p>
<p>鹿田会長 (進行)</p>	<p>質問はだいたい終わったかと思えます。</p> <p>その他としまして皆さまから何かありますでしょうか。</p>

<p>蜂屋委員</p>	<p>私は市民協働のアドバイザーとして関わらせていただいております、「ののいち市民協働フォーラム」のチラシを配らせていただきました。野々市市の中に、新たな公共の担い手として市民を育成したいということで、そのツールとして市民協働を位置付けているところです。その一環といたしまして、今年、カミーノで市民協働フォーラムを開催いたします。田中元子先生を講師にお迎えし、「一人でも公共って担えるんだ」というとてもおもしろい取り組みをされている方なので、ぜひお話を聞きに来ていただければと思いますご紹介させていただきました。</p>
<p>鹿田会長 (進行)</p>	<p>今日の審議内容にも関係あるようなフォーラムかと思っておりますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。</p> <p>それでは、この後の進行につきましては、事務局にお返しします。</p>
<p>司会 (閉会)</p>	<p>本日は、長時間にわたりまして、誠にありがとうございました。</p> <p>本日いただいたご意見をもとに、野々市市第二次総合計画の策定に取り組んでまいりたいと思っております。今年度の審議会は、あと1回、10月末または11月上旬に予定しております。今後、日程調整のご案内をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>最後に、閉会にあたりまして常田副市長よりごあいさつを申し上げます。</p>
<p>常田副市長 (閉会のあいさつ)</p>	<p>本日は、ご多用のところ総合計画審議会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。</p> <p>第一次総合計画の目標年次である令和3年度の末まで、2年半を切りました。計画の達成のために、ラストスパートをかけて取り組んで参りますとともに、第一次総合計画の取り組みの成果や課題を踏まえ、第二次総合計画の策定を進めて参ります。</p> <p>総合計画は、行政だけで策定するものではございません。市民の皆様の声をお聞きしながら、ともに作っていきたく思っております。皆様におかれましては、今後とも、本市のまちづくりに対する率直なご意見を賜りますようお願いを申し上げます。閉会の挨拶とさせていただきます。</p>
<p>司会 (閉会)</p>	<p>以上をもちまして、令和元年度 第1回 野々市市総合計画審議회를終了させていただきます。本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。</p>